メイドインひろしま I o T協議会 M i H i Aの概要

(Made In Hiroshima IoT Association)

メイドインひろしまIoT協議会

事務局:株式会社インタフェース内

メイドインひろしまIoT協議会

Made In Hiroshima IoT Association

略 称:MiHiA (ミーア)

(名称の意味)

I o T · A I による様々な事業の変革が進んでいますが、首都圏企業の独壇場のようなところがあり、地方都市が置き去りにされそうな危惧があります。そこで敢えてMade In Hiroshima を広島発 I o T ビジネスの接頭語に掲げ、県内で I o T によるビジネス拡大を志向する企業の皆様に集まっていただく"場"を立ち上げることといたしました。

ミーア(mia) というのはイタリア語で、「私の」という意味です。 協議会は個々の参加企業(私)を大事にした運営を目指します。

Mi Hi Aの輪



MiHiAの場

本協議会は、参加企業がIoTによるビジネス拡大を実現する『場』の提供を目的とします。

- ①モノづくり企業が I o T製品メーカの提供するハード、ソフトを有効活用し、既存システムとの連携をとりつつ、 I o T導入による生産性向上を実現する場
- ② | T企業とFA企業がそれぞれの不得手な領域を克服し、 | o T導入事業の新たな需要を開拓する場
- ③モノづくり企業、| T企業、| A企業、| A0 T製品メーカが連携することにより、メイドインひろしま | A0 T製品・サービスを作り出す場

会長挨拶

IoTは、コンピュータの歴史が始まって多くのエポックがあった中でも、パソコンの登場、インターネットの出現に匹敵する大きな変革のキーワードであると考えています。コンピュータの極限までの小型化・高性能化、5Gで実現される通信ネットワークの超高速化、実用段階に入ったAI人工知能の益々の適用拡大は、新たな産業革命を起こそうとしています。

そこで課題となるのが、地方都市広島でビジネスを営む我々中小企業にとって、IoTのトレンドを如何に、自らのビジネスに生かすことができるかだと思います。IoTは、技術革新における一つの技術概念と思いますが、適用範囲が広範囲なことから、ビジネスとしてどこから手を付けてよいのか戸惑われている企業が多いのではないでしょうか。私は、IoTにおける核となる技術基盤を習得・共有し、適用範囲を定めることにより、「広島発、全国へ、そして世界へ」と羽ばたけるのではないかと考えました。

幸い広島には、計測と制御の分野で30年間に及びインターフェース機器と産業用コンピュータを開発し、全国の様々な大手企業の生産設備、社会インフラ、各種車両搭載機器として実績を持つIoT製品メーカがあります。本協議会の発起人企業10社のうちの1社インタフェース社です。

私は、IoT製品メーカの様々な製品群の中で、IoT開発言語 AJANに注目しています。AJANは、例えば C 言語に比較すると 3分の 1 から 4 分の 1 の X の Y 関発言語としての X Y の Y 目前を Y に対しての Y の Y に対しての Y に対しています。

広島県下の製造業、ソフトウェア企業、FA企業、IoT製品メーカが共通の技術基盤を持つIoTクラスターとなり、IoT製品メーカの持つ先端的な製品・技術を共通基盤技術として、「メイドインひろしまIoT」の名のもとに「広島発、全国へ、そして世界へ」を目指しましょう。

MiHiAは、IoTによりビジネス成長を目指す正会員の皆様のみならず、賛助会員として、ひろしまサンドボックス、広島銀行、ひろしま産業振興機構、広島県立技術短期大学校、また、県外の先端的な企業の皆様のご支援も頂けることなっています。

ALL広島の力で、IoT・AIによるイノベーションを実現しましょう。

協議会会長 福井五郎

(前 一般社団法人広島県情報産業協会 会長)

協議会とは

Io T・AIによるイノベーションは、今後の産業発展の中核技術として脚光をあびていますが、範囲の広い技術領域であることから、各業界が手探りの状態で取組んでいるように思われます。既に、広島県サンドボックス事業等がIo Tに関わる異業種連携に取組まれて成果を出されていますが、焦点を絞った上で連携する企業集団による、継続的なモノづくりへの取組みが必須ではないでしょうか。

私たちは、 $I \circ T$ 事業を推進するために、広島に事業所を置く $I \circ T$ 導入を目指す製造業・I T系ソフト開発企業・ $I \circ T$ 製品メーカが持つそれぞれの技術を融合・研鑽するための協議会「メイドインひろしま $I \circ T$ 協議会(M : H : A)」の設立を考えました。

本協議会は、参加企業がIoTによるビジネス拡大を実現する『場』の提供を目的とします。

- ①モノづくり企業が I o T製品メーカの提供するハード、ソフトを有効活用し、既存システムとの連携をとりつつ、 I o T導入による生産性向上を実現する場
- ② | T企業とFA企業がそれぞれの不得手な領域を克服し、 | o T導入事業の新たな需要を開拓する場
- ③モノづくり企業、IT企業、FA企業、IoT製品メーカが連携することにより、『メイドインひろしまIoT製品・サービス』を作り出す場

■ 名称

メイドインひろしま IoT 協議会 略称: MiHiA (Made in Hiroshima IoT Association)

■ 設立

2020年4月13日 設立総会

■ 目的

本協議会は、IoT・AI で総称される新しいビジネス分野に中小企業が対応するために、IoT・AI システム開発の基盤となる製品群を活用することにより、参加各社の対応技術力向上と、新製品開発の連携を行うこと、そして、IoT・AI 技術の発展に資することを目的とする。

■ 事業内容

- (1) IoT・AI システムに関する調査及び研究
- (2) IoT・AI システムに関する情報交流
- (3) IoT・AI システムに関する普及啓発
- (4) IoT・AI システムに関する標準化の推進
- (5) IoT・AI システムに関する共同受注・共同開発の推進
- (6) その他本協議会の目的を達成するために必要な事業

■ 発起人

株式会社アドバンステクノロジー 代表取締役 濱中政宏 株式会社インタフェース 代表取締役会長 國司 健 株式会社エコー・システム 代表取締役社長 宇郷 亮 株式会社 TCC 代表取締役 藤井主峰 東洋電装株式会社 桑原弘明 代表取締役 株式会社ネクストビジョン 代表取締役 有馬猛夫 株式会社ハイエレコン 代表取締役社長 上田康博 ヒロコン株式会社 代表取締役 和田裕幸 平和情報システム株式会社 代表取締役社長 山下 晶 FK企画 代表 福井五郎

組織構成・会則

■ 組織構成

役員

特別顧問 國司 健 (株式会社インタフェース 代表取締役会長)

顧問 演崎 利彦 (広島工業大学 情報科学部長 教授)

会長 福井 五郎 (FK企画 代表)

理事 有馬 猛夫 (株式会社ネクストビジョン 代表取締役社長) 理事 上田 寛治 (デジタルソリューション株式会社 代表取締役)

理事 上田 康博 (株式会社ハイエレコン 代表取締役社長)

 理事
 國司 晃 (株式会社インタフェース 取締役)

 理事
 川野 和彦 (株式会社メカトロデザイン 社長補佐)

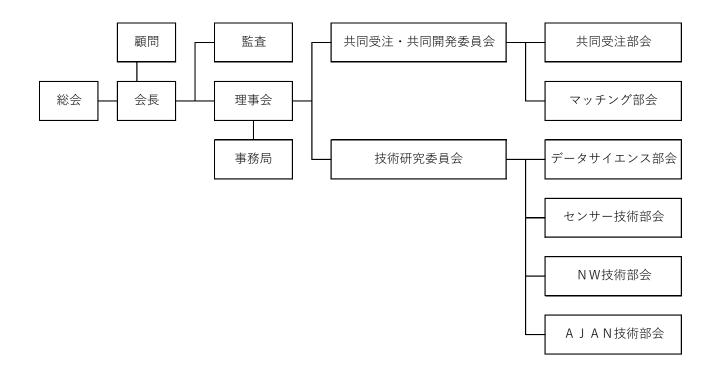
理事 桑原 弘明(東洋電装株式会社 代表取締役) 理事 藤井 主峰(株式会社 T C C 代表取締役)

監事 宇郷 亮 (株式会社エコーシステム 代表取締役社長) 監事 濱中 政宏 (株式会社アドバンステクノロジー 代表取締役)

正会員 法人会員 17組織 、個人会員 1名

賛助会員 法人会員 5 組織 、団体会員 1 組織

組織図



■ 会則

第1条(名称)

本協議会は、「メイドインひろしま IoT 協議会」と称する。略称を MiHiA(Made in Hiroshima IoT Association)とする。

第2条(目的)

本協議会は、IoT・AI で総称される新しいビジネス分野に中小企業が対応するために、IoT・AI システム開発の基盤となる製品群を活用することにより、参加各社の対応技術力向上と、新製品開発の連携を行うこと、そして、IoT・AI 技術の発展に資することを目的とする。

第3条(事業)

本協議会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) IoT・AI システムに関する調査及び研究
- (2) IoT・AI システムに関する情報交流
- (3) IoT・AI システムに関する普及啓発
- (4) IoT・AI システムに関する標準化の推進
- (5) IoT・AI システムに関する共同受注・共同開発の推進
- (6) その他本協議会の目的を達成するために必要な事業

第4条(会員)

- 1. 本協議会は、本協議会の目的に賛同し、入会の承認を受けた企業、団体、並びに、個人の会員をもって組織する。会員の種別は次の通りとする。
- (1) 正会員:法人、団体、個人
- (2) 賛助会員:会を支援する法人、団体、個人
- 2. 正会員は、広島県に本社を置く法人、広島県を活動の中心とする団体、広島県に居住する個人とする。

第5条(入退会)

- 1. 本協議会に入会しようとする者は、指定された方法により申し込み、理事会の承認を受けなければならない。
- 2. 本協議会を退会しようとする会員は、その旨を指定された方法により届け出なければならない。
- 3. 本規約を遵守しないとき又は協議会の名誉を毀損する行為があったとき若しくは次の各号の一に該当すると認められるときは、当該会員を退会させることができる。
- (1) 法人等(個人,法人又は団体をいう。)が、暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)であるとき又は法人等の役員等(個人である場合はその者,法人である場合は役員又は支店若しくは営業所(常時契約を締結する事務所をいう。)の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。)が、暴力団員(同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)であるとき。
- (2)役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。
- (3)役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
- (4)役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
- 4 会員が次の各号の一つに該当するときは、退会したものとみなす。
- (1) 法人会員として入会した法人又は団体が、解散し又は破産したとき
- (2) 個人会員として入会した個人が, 死亡又は失踪宣告を受けたとき

第6条(役員)

- 1. 本協議会に、次の役員を置く。
- (1) 会長(1名)
- (2) 理事(5名以上10名以下)
- (3) 監事(2名)
- 2. 会長、理事、監事は総会により選任する。
- 3. 役員の任期は、選任された総会の次の定期総会までとし、再任を妨げない。
- 4. 監事は、本協議会の収支決算について監査し、理事会に報告する。

第7条(総会)

総会は、年1回開催する。但し、必要に応じ臨時に開催することができる。

- 1. 総会は正会員の2分の1の出席をもって成立する。
- 2. 総会は会長が主催し議長を務める。
- 3. 総会の議事は、出席した正会員の2分の1をもって成立する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 4. 総会は次の事項を議決する。
- (1) 事業計画及び報告並びに運営に関すること
- (2) 予算及び決算に関すること
- (3) 会則の改正に関すること
- (4) 理事、監事の選出に関すること
- (5) その他、重要と認められる事項

第8条(理事会)

- 1. 本協議会に、理事会を置く。
- 2. 理事会は、理事、監事及び事務局をもって構成する。
- 3. 理事会は、本協議会への入会申し込みを承認するほか、本協議会の運営に関して重要な事項、及び会長が必要と認めた事項について協議し、決定する。
- 4. 理事会は、必要に応じて開催する。
- 5. 理事会は、会長が主宰する。

第9条(顧問)

- 1. 本協議会は、本協議会の目的を達成するために必要と認められる場合には、外部の有識者等を顧問(若干名)として委任することができる。
- 2. 顧問は、本協議会の事業に関して助言を行う。
- 3. 顧問の委任は、理事会で定める。

第10条(委員会等)

- 1. 本協議会は、必要に応じて、委員会を置くことができる。
- 2. 委員会の設置、構成及び委員長は、理事会で定める。
- 3. 委員会は、外部の有識者等をその構成員とすることができる。
- 4. 委員会には、部会及びWG (ワーキンググループ) を置くことができる。

第11条(年会費)

- 1. 正会員は会計年度ごとに年会費を納入しなければならない。
- 2. 年会費は年間3万円とする(但し賛助会員は無料とする)。
- 3. 正会員が既に納入した年会費は、原則これを返還しない。

第12条 (会計年度)

本協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第13条(事務局)

- 1. 本協議会は、会長の総理の下、本協議会の会務を処理するため、事務局を置く。
- 2. 事務局は、株式会社インタフェース内に置くこととし、同会員が事務を行う。

第14条 (その他)

この規約に定めるもののほか本協議会の運営上必要な事項は、理事会が別に定めるものとする。

附則

- 1. この会則は、設立の日(2020年4月13日)から施行する。
- 2. 第11条2項の変更が2021年度通常総会で承認されたので、2021年4月19日から施行する。

<正会員>

NO	業種	会 社 名	所 属	役 職	氏 名
1	ΙT	株式会社アドバンステクノロジー		代表取締役	濱中 政宏
2	商社	株式会社 ICHIKAWA		執行役員	広沢 秀起
3	製造	株式会社インタフェース		取締役	國司 晃
4	ΙT	株式会社エコー・システム		代表取締役会長	宇郷売
5	ΙT	FK 企画		代表	福井 五郎
6	ΙT	株式会社オプトプランニング		代表取締役	高橋 玲子
7	ΙT	株式会社サンネット		取締役	平賀 一巳
8	ОТ	株式会社シリウス 1		取締役	尾首 俊之
9	ОТ	株式会社 TCC		代表取締役	藤井 主峰
10	ОТ	デジタルソリューション株式会社		代表取締役	上田 寛治
11	ОТ	東洋電装株式会社		代表取締役	桑原 弘明
12	ΙT	株式会社ネクストビジョン		代表取締役	有馬 猛夫
13	ΙT	株式会社ハイエレコン		代表取締役社長	上田 康博
14	IoT	株式会社ビーシーシー		代表取締役社長	関谷 洋
15	ОТ	ヒロコン株式会社		代表取締役	和田 裕幸
16	ОТ	平和情報システム株式会社		代表取締役社長	山下 晶
17	ОТ	株式会社メカトロデザイン		社長補佐	川野 和彦
18	製造	株式会社ヒロテック	情報技術研究所	主任研究員	川邊剛

<賛助会員>

NO	業種	会 社 名	所属	役 職	氏 名
1	金融	広島銀行	デジタル戦略部	部長	瀬尾 浩一
2	団体	(公財)ひろしま産業振興機構	企業支援統括担当	常務理事	荒神雄一郎
3	教育	広島県立技術短期大学校		校長	池宗 良雄
4	ΑI	株式会社アドダイス		代表取締役社長	伊東 大輔
5	ΙT	株式会社日立システムズ	営業統括本部	事業主幹	村上 稔
6	ОТ	株式会社オフィスエフエイ・コム	広島出張所		河原 睦之

メイドインひろしま Io T協議会 入 会 申 込 書

年 月 日

メイドインひろしま I o T協議会 設立準備会 代表 福井五郎 宛

社名所在地代表者名

メイドインひろしま IoT 協議会の目的(規約第2条)に賛同し、規約を承認の上で、入会を申し込みます。

会員区分		会員(法人、団· }の □ を ■ に				□ 賛助会員 のみご記入くだ	さい)
社 名							
住 所 *	₹ TEL:						
	役 職 名						
代表参加者	氏名*			かな	* 1		
1 (電 話 *				1		
	e-mail *						
	役 職 名						
連 絡 窓 □ ★必要な場合は追加連	氏 名			かた	ā		
絡先をご指定下さい email を同報します	電話				·		
	e-mail		T				
資 本 金			設立年月	目目			
主たる株主							
従 業 員 数	総数	名	(内) IoT 图]連要員			名
会 社 沿 革				É	こな業	務 *	
正会員は、下記何れか "ロ"チェックしてくだる ※委員会の下部活動組	さい。複数名の	の参加可能です。	参加者は入会	会後に登録	录していただき		
□ 共同受注・共同		研究委員	会 *				
理事推薦者(会社、」							
設立準備会承認年月		年	月				

日本語:メイドインひろしま I o T協議会

英 語: Made In Hiroshima IoT Association

略 称:MiHiA(ミーア)

(名称の意味)

す。

I o T・A I による様々な事業の変革が進んでいますが、首都圏企業の独壇場のようなところがあり、地方都市が置き去りにされそうな危惧があります。そこで敢えてMade In Hiroshima を広島発 I o T ビジネスの接頭語に掲げ、県内でI o T によるビジネス拡大を志向する企業の皆様に集まっていただく"場"を立ち上げることといたしました。ミーア(mia) というのはイタリア語で、「私の」という意味

です。 協議会は個々の参加企業(私)を大事にした運営を目指しま

〒732-0826 広島市南区京橋町10-21

株式会社インタフェース内

メイドインひろしま I o T協議会 (MiHiA)

事務局長 吉川洋充

TEL: 082-262-7777 Email: kikkawa@interface.co.jp

メイドインひろしま I o T協議会 MiHiA 2021 年度事業計画

(Made In Hiroshima IoT Association)

2021年 4月22日

メイドインひろしまIoT協議会

2021年度MiHiA事業計画書

1. はじめに

コロナ禍が続く中で、世界経済は不安定さを増していますが、一方で、中国や台湾はコロナ禍を抑え込み、GDPもプラス成長を達成しています。その原動力はITの活用レベルにあるといっても過言ではありません。発生元のデータ処理と(クラウド)サーバー側での分析・解析処理がシームレスにリアルタイムに行われること、まさに、IoTの出番です。

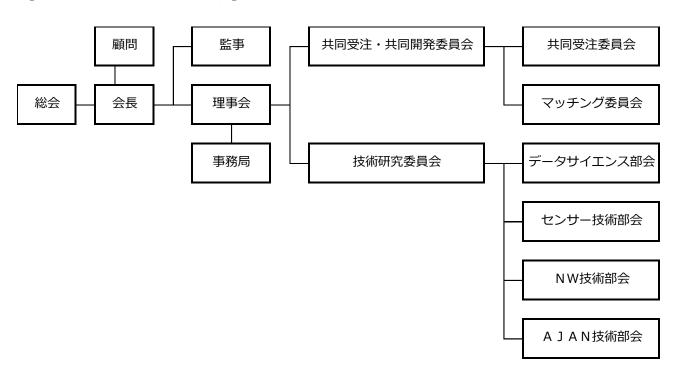
MiHiAは、参加企業が共通の技術基盤に精通することと、個々の企業の持つ業務・技術ノウハウを融合することで、IoT化を実現するスピードと品質を上げることを目指します。メイドインひろしま IoTの実現です。

本年度は、前年度で培った技術研究委員会と共同受注・共同開発委員会の全員参加の活動を、具体的なテーマとゴールを定めた部会活動に落とし込み、成果の出せる年にしようではありませんか。

個別な活動内容は、各委員会の計画の項に譲りますが、技術研究委員会の所掌する「NW技術部会」、「センサー技術部会」、「データサイエンス部会」、「AJAN技術部会」と共同受注・共同開発員会の所掌する「共同受注部会」、「マッチング部会」の活動を通じて、コロナ禍に負けないメイドインひろしま IoT活動を行いましょう。

MiHiAにおける活動の基本単位は委員会・部会活動です。各委員会・部会は協議会の提供できる最大の"場"であり、会員の皆様の参画なくしては十分な活動を行うことができません。会員の皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。

【2021年度MiHiAの組織】



2. 会議開催予定

(1) 通常総会 1回 2021年4月

(2) 理事会 6回 5月・7月・9月・11月・1月・3月

(3)全体会議 2回 9月・1月

(4) 委員長会議 12回 毎月(オンライン会議)

(5)技術研究委員会 12回 毎月(部会の活動報告、ミニセミナー他)

N W技術部会1 2 回 毎月センサー技術部会1 2 回 毎月データサイエンス部会1 2 回 毎月A J A N技術部会1 2 回 毎月

(6)共同受注・共同開発委員会 12回 毎月(部会の活動報告、賛助会員からの情報提供他)

共同受注部会12回 毎月マッチング部会12回 毎月

(7) 工場見学 2回 委員会開催月に委員会活動として設定

(8) 講習会の開催 適時 技術研究委員会で企画

3. 委員会・部会活動

3. 1 共同受注・共同開発委員会

前年度に引き続き毎月委員会の開催を行い、セミナー及びIoTに関係する諸団体、行政、支援団体からの情報提供を中心に、会員各社に役立つ情報提供の場を設けます。そして一層の会員企業の取り組みの発信に努め、共同受注の機会創出につながる活動を進めます。さらに本年は昨年コロナ禍により停滞していた会員企業同士の交流を深める活動を模索しながら、互いが保有する技術や取り扱い商品を理解し、共同開発プロジェクトに繋がる活動を進めます。また、今年度はより共同受注・共同開発プロジェクトに向けた実践的な活動を進めるため、昨年度検討を重ねていた「共同受注部会」「マッチング部会」の2つの部会を立ち上げ、共同受注に向けた具体的な活動と、会員各社との密な絆づくりを図り共同開発プロジェクトが円滑に実施できる基盤を確立します。各部会の活動については以下の通りです。

(1) 共同受注部会

共同のプロジェクトを実施するにあったっての具体的な体制とルール作りを行います。また、受注案件の総合的な窓口としての役割を担い、MiHiAとして具体的な案件を受注することを目標として、以下の事項に取り組むこととします。

- ・受注情報の総合受付窓口
- ・共同体制、共同ルールの検討と策定
- ・会員情報整理

(2) マッチング部会

交流会を実施し、互いの案件情報とシーズ情報をマッチングし、会員相互の密な絆づくりと、MiHiAとして最適な体制で共同開発プロジェクトを立ち上げることを目標として、以下の事項取り組むこととします。

- ・交流会の検討と実施
- ・互いの案件情報の共有とシーズ情報の共有

・共同受注部会からの受注情報によるプロジェクトメンバーの選定

3. 2 技術研究委員会

前年度に引き続き毎月委員会の開催を行い、その中でセミナーや先進的な取り組みが行われている工場を見学する等を通じて、会員各社に役立つ情報提供の場を設けることとします。さらに今年度はより実践的な技術を身に着ける機会を設けるため、昨年度発足した「センサー技術部会」「NW技術部会」「データサイエンス部会」「AJAN技術部会」の4つの部会を中心に具体的なテーマを掲げて技術研究を行い、会員各社の技術の底上げと共同開発を行うための共通的技術基盤の確立を図ります。各部会の活動については以下の通りとします。

(1) NW技術部会

参加各社が工場 DX へ向けてネットワーク部分について最適な提案が出来るようになっていることを目標として、以下の事項に取り組むこととします。

- ・最新のネットワークについて情報交換
- ・現場でのネットワーク事例の紹介
- ・最適なネットワーク構築についてディスカッション

東洋電装可部新工場でも実証実験の場所として使用予定

(2) センサー技術部会

会員各社の持つセンサー事例等の発表を行ない、技術の共有や底上げを行う。

センサー応用システムを作るために必要な技術等の項目を洗い出す。

会員各社がどの項目を得意としているかを把握して業務協力関係の見える化を行う。

不足している項目に対しては調査や勉強会等で強化を図る。

(3) データサイエンス部会

9社18名とその他の参加者で構成し、データサイエンスビジネスの理解と参加者による実データを用いたデータサイエンスプロジェクトを実施する。各種データの取扱い方法、データ分析方法(統計解析や機械学習手法、最適化手法等)、分析結果の判断並びにプロジェクト運営について討議しながら、データサイエンスの実務を身につけ、今後発展するビジネスについて知見を共有する。

経済産業省の地域産業デジタル化支援事業等の助成金公募事業への応募を申請し、活動予算の 助成を受けられるよう活動する。

(4) AJAN 技術部会

AJAN 言語を使っての開発案件が発生した場合を想定して、AJAN 言語を使用可能な開発技術者の育成に向けた勉強会や、AJAN 言語を使いやすい言語とするために、有識者による課題共有の場を設定する。

(参考) 2020 年度活動実績

1. はじめに

2020年度4月に発足したMiHiAは、発足以来コロナ感染禍の中でも活発な活動を重ねてまいりました。

事業計画に掲げた、技術研究委員会と共同受注・共同開発委員会を主体とした活動は、毎月開催で毎回25名平均のご参加をいただいております。都度、行われた有意義なセミナー実施や、行政を中心とした賛助会員の皆様からの様々な I o T に関連する施策をご紹介いただき、各社の事業を行う上で有用な情報になったと思います。また、会員企業の事業紹介の中で各社の事業内容を詳細にお聞きすることができ、今後の事業を協業する上で多くの収穫がありました。

広島県からお話をいただいた河川の簡易水位測定システム提案については、MiHiAの会員がコンソーシアムを組んで取り組みました。残念ながら採用には至りませんでしたが、共同受注における知見を得ることができました。

技術研究委員会においては、2021年1月にNW技術部会、センサ技術部会、データサイエンス部会が第1回部会を開催いたしました。次年度の活動の核に育てたいと思います。

共同受注・共同開発委員会においても、会員紹介冊子の第1版を作成することができました。次年度 の共同受注事業の推進に活用したいと考えています。

一方、製造業における具体的な I o T化推進の共同受注の取組みが遅れております。共同受注ガイドライン作成を担当する部会と I o Tの共同受注推進を担当する部会の組織化を進めている段階ですが、来年度には活動を開始したいと思います。

2020年度の具体的な活動実績は以下の通りです。

2. 会議開催状況

(1) 設立総会 1回 2020年4月13日

(2) 理事会 4回 6月・7月・9月・11月・1月・3月

e-mail 理事会 2回 4月・5月(コロナ感染症対策のため email 実施)

(3)技術研究委員会 9回 6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月・2月・3月

(登録者数: 31名)

(4) 共同受注・共同開発委員会 9回 6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月・2月・3月

(登録者数:28名)

3. 会員の状況

(1) 正会員(18社)・・・広島に本社のある会社

株式会社アドバンステクノロジー、株式会社 ICHIKAWA、株式会社インタフェース株式会社エコー・システム、FK 企画、株式会社オプトプランニング株式会社サンネット、株式会社シリウス 1、株式会社 TCC、デジタルソリューション株式会社東洋電装株式会社、株式会社ネクストビジョン、株式会社ハイエレコン株式会社ビーシーシー、ヒロコン株式会社、平和情報システム株式会社株式会社メカトロデザイン、株式会社ヒロテック

(2) 賛助会員(7社・団体)

株式会社アドダイス、株式会社日立システムズ、広島銀行、広島県立技術短期大学校 公益財団法人ひろしま産業振興機構、ひろしまサンドボックス 株式会社オフィスエフエイ・コム

4. 役員の状況

特別顧問 國司 健(株式会社インタフェース 代表取締役会長)

顧 問 濱﨑利彦(広島工業大学情報学部長)(2020年12月より)

会 長 福井五郎 (FK 企画 代表)

理 事 鎌田尚彦 (株式会社インタフェース 取締役)

藤井主峰(株式会社 TCC 代表取締役)

上田寛治(デジタルソリューション株式会社 代表取締役)

桑原弘明(東洋電装株式会社代表取締役)

有馬猛夫(株式会社ネクストビジョン 代表取締役)

上田康博(株式会社ハイエレコン 代表取締役社長)

川野和彦 (株式会社メカトロデザイン 社長補佐)

監 事 濱中政宏(株式会社アドバンステクノロジー 代表取締役)

宇郷 亮 (株式会社エコー・システム 代表取締役会長)

事務局長 吉川洋充 (株式会社インタフェース IoT 応用推進部 部長)

5. 講演会・セミナー・ミニセミナー(セミナー:19回、工場見学:1回)

(1) 4/13 設立総会

テーマ:『広島県における IoT 推進の現状と課題』

広島県イノベーション推進チーム 地域産業 $I \circ T$ 等活用プロデューサー 中井哲也氏 テーマ: 『メイドイン広島企業インタフェースの $I \circ T$ 製品戦略』

① ネットワーク、データベース戦略

岩田恵一氏

② システム、ロボット、ソフトウェア戦略

藤居芳生氏

③ コンピュータ、IO 製品戦略

田元浩司氏

(2) 6/16 MiHiA委員会

テーマ:インタフェース社 I o T 案件紹介

株式会社インタフェース 取締役 鎌田尚彦氏

テーマ:インタフェース社の製品紹介(インタフェースモジュール、産業用コンピュータ)

講師:インタフェース 部長 吉川洋充氏

(3) 7/20 MiHiA理事会

(株)インタフェース 広島事業所(大竹工場) 見学

(4) 7/21 MiHiA技術研究委員会

テーマ:「つながる中小製造業でスマートづくり」

講師:デジタルソリューション株式会社

テーマ:IOTシステム開発言語 AJAN の概要

講師:インタフェース 部長 吉川洋充氏

テーマ:ミニセミナー「ハイエレコンの RFID ソリューショント

講師:ハイエレコン スマートソリューション事業部 課長 萬谷哲也氏

(5) 8/18 MiHiA技術研究委員会

テーマ:計測制御システム開発実習の概要説明 福井会長

テーマ:ミニセミナー「デジタル化から働き方改革」

講師 東洋電装株式会社 IoTシステム開発事業部長 驛場啓之氏

(6) 9/24 MiHiA技術研究委員会

テーマ:「DX のジレンマ」

講師:広島工業大学 情報学部長 濱崎 利彦氏

テーマ:ミニセミナー「ヒロコンの IoT 関連システムとスマートファクトリー事業」

講師:株式会社ヒロコン 代表取締役社長 和田様

(7) 9/24 MiHiA共同受注・共同開発委員会

テーマ: 「Team Cross FA について」

講師:オフィスエフエイ・コム 様

(8) 10/20 MiHiA共同受注・共同開発委員会

テーマ:共同受注ガイドライン作成にかかわる情報提供

① 松江における Ruby の活用と経済振興の事例 有馬委員長

② 自治体 I T 発注におけるコンソーシアム方式の例 福井会長

(9) 10/20 MiHiA技術研究委員会

テーマ: 「BI ツール TABROU について」

講師 ㈱シリウス1 代表取締役社長 竹田様

テーマ:ミニセミナー「河川水位測定テレメトリーシステム他」

講師 ㈱平和情報システム 代表取締役社長 山下様

(10) 11/17 MiHiA技術研究委員会

テーマ: 「ローカル 5 G について」

講師: (株)ドコモ CS 中国 法人営業部長 沖本 茂雄 様

テーマ:「LPWA 通信規格 ELTRES について」

講師: (株)シリウス1 技術開発部 尾首 俊之 様

(11) 12/23 技術研究部会 (Zoom 参加が半数)

テーマ: 「製造業の DX 実現に求められる データ収集技術について

~ストリームデータ解析エンジン(CEP 技術)~」

講師:エネルギアコミュニケーションズ ソリューションサービス部

ⅠoTソリューション マネージャ 増田 剛洋 様

(12) 12/23 共同受注・共同開発委員会(Zoom 参加が半数)

テーマ:「超高速エッジAIチップによる顔認識・温度・マスクチェック装置 EG-Keeper」

について

講師:株式会社ミックス 北川 和典 様

(13) 2/17 技術研究委員会(Zoom 参加が半数)

テーマ: 「アドダイスが取り組む AI 活用プロジェクト~新型コロナ COVID-10-ResQ プロジェクト」 紹介

講師:株式会社アドダイス 代表取締役社長 伊東 大輔 様

(14) 3/16 技術研究委員会(Zoom 参加が半数)

テーマ:「AJAN を活用したシステム開発事例」

講師:株式会社インタフェース 吉川 洋充 様

6. 行政からの支援事業情報の説明等(共同受注・共同開発委員会)

(1) 6/16 委員会での説明

内 容:広島県からの「簡易型水位計開発業務等」の公募案件の紹介があった 平和情報システム、東洋電装他にて応募

内 容:広島県産業振興機構 時盛氏より以下の紹介があった。

・企業向けデジタル化支援事業

・ひろしま IoT 実践道場

2 社オブザーバ参加が決定

(2) 7/21 委員会での説明

内容:「HIROSHIMA ビジネス実験部」について 広島県イノベーション推進チーム 様 「ものづくり現場 IoT 推進リーダー育成塾」について(20 分) ひろしま産業振興機構 様

(3) 8/18 委員会での説明

内容: 「I o T ハンズオンセミナー」の講師のお願いについて 広島県立技術短期大学校 河野様

(4) 9/24 委員会での説明

内容: 「広島県の9月補正予算について」 ひろしま産業振興機構 時盛 恒爾 様

(5) 10/20 委員会での説明

内容:「オンライン展示会への無料参加について」 ひろしま産業振興機構(Zoomにて)

(6) 11/17 委員会での説明

内容:「変革を支援する先進企業・スタートアップについて」 中国経済連合会 部長 大月様

(7) 12/23 委員会での説明

内容: 「広島県の進める I o T 道場について」 広島県イノベーション推進グループ 長谷川様

(8) 2/17 委員会での説明

内容:「ものづくり現場 IoT 推進リーダー育成塾」における MiHiA 会員の参画依頼 ひろしま産業振興機構 時盛 恒爾 様

(9) 3/16 委員会での説明

内容: [loT に対する支援内容] について 中国経済産業局地域経済部製造・情報産業課 総括係長 森脇 渉 様

7. 会社紹介プレゼンテーション(共同受注・共同開発委員会)

7/21 株式会社エコー・システム、株式会社ハイエレコン、平和情報システム株式会社

- 8/18 東洋電装株式会社、ヒロコン株式会社
- 9/24 株式会社 TCC、株式会社メカトロデザイン
- 10/20 株式会社ビーシーシー、株式会社ネクストビジョン
- 11/17 デジタルソリューション株式会社、株式会社日立システムズ
- 12/23 株式会社シリウス1
- 2/17 株式会社オプロプランニング
- 3/16 株式会社サンネット、公益財団法人ひろしま産業振興機構

8. プロジェクトの進捗状況

(1) 参加企業による共同受注・共同開発のガイドライン研究

毎回の理事会で継続検討

(2) ソフトウェア開発向け AJAN 講習会

当面は一般社団法人広島県情報産業協会の「計測制御システム開発実習」に参加中

(3) 会員企業紹介冊子作成

MiHiA会員の企業概要、得意分野をまとめた対外向けの資料を作成した

(4) AJAN言語の開発者と各社CTOの意見交換会

12/21 開催 参加者:(株)インタフェース:緒方様他2名の AJAN 開発者

MiHiA:ハイエレコン、ヒロコン、TCC、BCC、シリウス1

(5)技術研究テーマの検討

毎回の委員会で内容を絞り込み

(6)技術研究委員会部会の発足

12/23 の委員会にて以下の 4 部会の発足が決定した。

データサイエンス部会9社、18名NW 技術部会5社、10名センサー技術部会6社、9名

3/16 の委員会にてAJAN技術部会の発足が決定した。

A J A N 技術部会 4 社、 5 名

(7) 共同受注・共同開発委員会部会の発足

3/16 の委員会にて下記の2部会の発足が決定した。

共同受注部会4 社、 4 名マッチング部会8 社、 9 名

日本語:メイドインひろしま Io T協議会 英

語 : Made In Hiroshima IoT Association 略

称: M i H i A (ミーア)

(名称の意味)

I o T・A I による様々な事業の変革が進んでいますが、首都圏企業の独壇場のようなところがあり、地方都市が置き去りにされそうな危惧があります。そこで敢えてMade In Hiroshima を広島発 I o T ビジネスの接頭語に掲げ、県内で I o T によるビジネス拡大を志向する企業の皆様に集まっていただく"場"を立ち上げることといたしました。

ミーア(mia) というのはイタリア語で、「私の」という意味です。

協議会は個々の参加企業(私)を大事にした運営を目指します。

〒732-0826 広島市南区京橋町10-21 株式会社インタフェース内 メイドインひろしま I o T協議会 (M i H i A)

事務局長 吉川洋充

TEL: 082-262-7777 Email: kikkawa@interface.co.jp